

DIGITABLE 第 97 回勉強会レポート

2016年7月16日 於：江東区亀戸文化センター 第3会研修室



ベテラン会員の Youtube に関する質問に答える 高木 大輔 講師

Digitable 基礎講座「Photoshop の色相・彩度」：高木大輔講師

参加者全員による“ライトニングトーク”

Photoshop 研究講座「写真集を作ろう③」：平野正志講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

DIGITABLE2016 デジタルフォト基礎講座 第4回 Photoshop の色相・彩度：高木大輔講師

色調調整の第一弾は、トーンカーブと並ぶ基礎的調整メニューの代表格「色相彩度」だ。

昨年からの動画解説を交えながら説明する。

(※「色相彩度」の動画解説は全部で5本あります)

■色の見え方は光源や物体によって変化するが、色味とその濃淡（鮮やかさ）や明暗の三つの要素に分解できる。これらは、色相、彩度、明度と呼ばれ、合わせて色の三属性と呼ぶ。

■ Photoshop の「色相・彩度」機能では、色相・彩度・明度をそれぞれのスライダで調整する。

トーンカーブ後に使用するのが基本だが、その際無彩色部分に色がつくことを避けるためあらかじめトーンカーブでグレーバランスを整えてから「色相・彩度」機能を使用するとよいだろう。

■「色彩の統一」にチェックを入れて色相を変化させると、全体の色合いが1色に統一された画像ができる。

いわばモノクロ画像に調色をするようなプロセスが一気に行える機能で、ブルーがかったイメージやセピア色の写真を作るときなどに便利なのだが、これを調整レイヤー上で使用して、レイヤーの効果を利用して独特のイメージ効果を得ることが出来る。

■大きな明暗の調整等で、トーンジャンプが発生するような場合も、最後に色相・彩度で微調整を行うことで、失われた階調の補完効果も期待できる。

は彩度を上げ下げすることにより、RGB 各色のピクセルが再分配された結果、失われたトーンが復活してくるのだ。この場合は彩度を上げたが、調整によっては彩度を下げても同様の効果が得られる。

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20151021 All Rights Reserved



色相・彩度ダイアログ
下部にある二本のスペクトルラインは、調整スライダと呼ばれる（解説動画） Photoshop の色相・彩度② 色相・彩度 基本操作編
<https://www.youtube.com/watch?v=RRLLFRvecvckI>



大きな明暗の調整では、かなりのトーンジャンプが発生している



彩度も適切に戻り、トーンジャンプが大きく改善しているのが分かる
（解説動画） 週刊デジタル第84号
Photoshop の色相・彩度での階調の補完効果
<https://youtu.be/7vul9fGPYtc>

参加者全員による “ライトニングトーク”

- ① KS 会員：久々に制作再開 古河の大賀蓮
- ② TN 会員：学習院小講堂での Round Base Pro 360° 撮影
- ③ NY 会員：山崎会員の遺作セレクト
- ④ IF 会員：記念作品展用のプリント
- ⑤ EY 会員：1/20000 秒の特殊閃光写真にチャレンジ
- ⑥ NY 会員：記念作品展用の自作コラージュ検討
- ⑦ T 講師：8 月森下文化センターでの講師展作品報告
- ⑧、⑨ Shirasy 会員：小物用撮影ボックス+アプリの試作を使って試し撮り。モータ（Webmo）で撮影対象の向きを変える…etc.

研究講座「写真集を作ろう③」

平野正志講師

■写真集ベースデータ

ベースデータを PSD（Photoshop）形式で用意した各ペー上のガイドラインを参考に各自の写真を配置、また 1、3 ページ目ではレイヤーパレットを開くと、各自のタイトルやコメントの元テキストが用意されているので、そちらに各自テキストを書き足していただく形式だ

■その他、プリンターでの印刷設定の確認と注意点についておさらいした

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20160222 All Rights Reserved



手作り写真集の製作について解説する平野講師



https://www.facebook.com/yoichi.shirasawa?fref=pb&hc_location=friends_tab&pnref=friends.all



(今月の 1 枚) 白澤副代表発表の撮影装置の機構に群がる TECHNICAL 分科会? の面々

